

2回目の成人式

サバエ (会社員 / 41歳)

僕は41歳。ここの誕生日を迎えたら42歳だ。自分で書いたこの数字を見て、我ながら驚いてしまう。「いやあん☆」とかおどけてみたくなる。でもおどけたって何も変わらない。そもそも42にもなると「いやあん」かよ。泣くのがわめぬのが、誰にも時間の経過を止めることはできない。そう、42年間、生きてきたのだ。去年から今年にかけて考え始めたのが「老後」。もとより極楽トンボで、楽しければ構わないし、後先を考えない自分。そんな自分はこの先、一体どんな人生を歩むのだろうか。 自問自答。

こないだ会社の後輩と話したら年齢の話になった。

「サバエさん41歳!? むじごすか!」

若く見えるのねアタクシ。まあ努力もしてるしね。うふふ。なんて思ってた

「40代って社会的責任もあるし大変ですよ。ななとらで人生折り返し」

と彼は続けた。思わず彼の顔をみた。「話してるのかと思って」

いや、20代後半の彼はいたって真面目、神妙に考えながら話している。

けさこうシヨクだった。「折り返し」って言葉。

人間は確実に年をとる。人生80年で考えれば、確かに40代は折り返し。

ストレートの同級生は結婚し、小学校高学年から中学生の子供を育てている。

彼らの40代と、僕らの考える40代にはちよと差があると思う。

そういった結婚・出産などの節目、子供の成長といった、自分の年齢をはかる身近な物差しみたいなのが、独身でゲイの僕には無いのだ。

気ままな独身ゲイは、ある日どこかでトスと年齢相応の現実を突きつけられるだろう。

おまけにゲイは若作りの傾向が強い。誰でも若々しくいたいという気持ちがあるだろうが老けたくないという気持ちは、他の男性より強いものがある。

そしてますます現実から遠ざかりがちになる(アタクシだけでもどうか? 書いてて不気です)。

でも、現実が現実。これからは若さを失うばかり。そこでちよとだけ考えた。

楽しく生きることが人生の最大の目的であるし、最大の目標だが、これからは「楽しくしつかりと生きる」ことを目標にしたい。選まきながら(笑)。

親のこと、お金のこと、老後のこと、仕事のこと…すべていづれには考えられないのだけど、近いうち必ずやってくる「現実」を目標えていきたい。

でも暗くなるななとナニセンス。明るく楽しく、プラス「しつかりと」だ。

失う若さの代わりに、これから得るものは山ほどある。だから人生は楽しい。

ちよとしい具合にトスをとってるのかもしれない。

2回目の成人式のあと、選まきながら、ちよやく僕は自分の年齢を実感している。



それでも生きたかった 匿名希望 (男性/30代)

Message
from
匿名希望

私は、H1Vボシタイプです。感染が発覚したのは、平成13年1月。熱が続き、さまざまな病院へ行ったりして、点滴を受けたり、風邪薬をもらって、会社を休んで療養していましたが一向に熱はさがらず、

「もう、だめかな？」

と自分でも思うくらい、生きてきた経験の中には無い、全身のだるさが、体を置いてしまい、まったく、何をやる気もおきませんでした。

「ひよとして…」

今まで、脳裏をかすめても否定していた、H1Vという言葉でも、ここで、保健所への一歩を踏み出しました。検査結果を聞きに行つたとき、冷静に聞いているように努めました。聞く前から、自分はH1Vではないかと思っていましたので、担当の方の話し方が言いくさそうな感じでしたので、

「あー、やっぱり」

と思い、なんともいえないような汗がどろどろとでてきたのを感じています。

H1Vボシタイプだという、告知を受けて、紹介状をもらって、家に帰るまでの間のことはまったく覚えていません。自宅に帰ってから、泣きました。声を出して泣きました。会社の寮だつたことから、周りに気づかれないように、布団をかぶって、一晩泣きました。

職場でも、昨日までの自分と違う気がしました。周りは何も変わってなく、仕事も同僚も何も変わってないことが逆に自分

が感染してしまったことを特別な事と浮き彫りにしているようで、いただけない気持ちでした。

一時は、人との会話や接触を避けるようになってしまいましたし、人として、失格の烙印を押されたような失望感、いつこなるかわからないという不安。

「いつまで生きられるのか…」

「最後は、苦しむんだらうか。汚らしい死を迎えるんでらうか…」

「でも、これは自業自得なんだ。だれも助けてくれないんだ…」

と、出口がない暗闇に一人でいるような感覚でした。

それでも、私は、生きたくしたのでしょう。紹介された、拠点病院へ行きました。

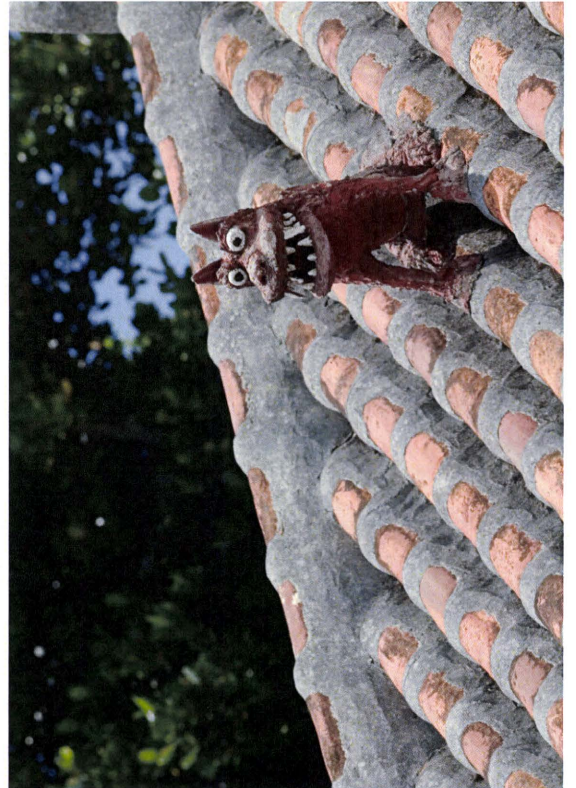
職場へ、病名が知られてしまうのではないかと、という不安もありました。いろんな出来事のおかげに、不安がよぎりました。でも、ふと、思ったことがあつたのです。服薬をしている今は、自分がH1Vボシタイプであるということを、あんまり意識してないことに気がつきました。それほど、普通に過ごしているのです。

逆に、病気によって、様々なことが、わかつた気がします。人の不安や、恐怖。人は、それぞれに、不安を抱えて生きているんだなあと、自分だけ不幸みたいな考え方はやめよう。くよくよしても仕方ない。これからは楽しくするために何ができるか。病気で苦しむとはどうということか。

毎日、ニュースでは人が亡くなつたりしています。毎日、不安になつて怯えて生きるより、自分らしく、自分にできること、しな

ければならない事がたくさんあります。毎日が、人生の勉強です。H1Vがこれ以上、蔓延しないためには、何が出来るか。H1V感染がわかつたばかりの人に自分に手助けが出来るのか。少しでも役に立てることが出来るのか。

時間は、みんなに平等に与えられています。楽しく、笑顔で、そして、周りの人に感謝して生きていく。そういう人生を歩みたい。泣いても良いけど、そのむこうの扉を重いかもしれないけど、開けていけば、そこにさらに新しい自分の姿が見えるような気がします。いや、見えるはず。ずこしかつこつけてしまいましたが、だから、私は、これからも、H1Vと付き合っていきますし、自分らしく、自分の人生を歩みたいと思います。少しでも、誰かの心に灯りがともれば、幸いです。



ひとつの出会いが教えてくれた

eo (専門職/30代)

今から5年くらい前、エッチ掲示板を見ていたらそそられるような書き込みを見つけメールを交わし会う約束を取り付けました。夜中に車を走らせ、待ち合わせ場所に現れた彼は驚いた顔立ちに浅黒い肌、笑うと自然とほれる白い歯、薄い唇が似合う完璧な「沖縄のイケメン」でした。すっかり舞い上がった自分は「絶対にゴイツとやる」と意気込み、会話もそこそこ車の後部座席へと移動し抱き合うところから始めました。

でも、彼のことをいろいろ知りたいと思っただけ、キスをする直前にちょっとだけ話し始めたところ実は高校の後輩ということになり、話が止まらずついにはエッチをする雰囲気ではなくなっていました。

3時間ほどそのまま夜中の車内で話し込みましたが、最後の方で「僕、H-I-Vに感染しているんです」という告白を受けました。これが自分にとって初のH-I-V陽性者との出会いでした。それ以降、H-I-Vはすごく身近な問題なんだと考えるようになりました。

自分もそうですが、出会いが欲しいときにはインターネットを利用する人も多くいると思います。中にはコンドームを使わないセックスを求める人たちのサイトや、自分の感染を知って自暴自棄になった人の書き込みを目にすることもあります。あえてセーフティーセックスに反発するようなグループも増えているようです。セックスは個人的なものだし、主観の問題なので「セックスはコンドームの方が興奮する」と主張する人や、「ダメで年とつたら終わりだよ、どうせ結婚して家庭をもつわけでもないし、子供も持

たないから自分だけの責任だし、だったら、若いうちにやりまくって、病気がかかると早くキレちゃううちに死んでもいいんじゃないの？」という言葉に、どのように反論したらいいのか、分からないときがあります。それは、みんなや、そして自分が抱えている不安や欲望の表現そのものだと思うからです。

また、これだけH-I-V感染者が増加した現在、ネットでの出会いの中に、病気がかかることを「普通」や「仕方ない」と考える若い人たちがいることも事実です。

最近では沖縄でもH-I-Vや性感染症の予防啓発の活動が始まり、おかげで桜坂の飲み屋さんで「セーフティーでやろうよ？」という標語とともに置いてあるコンドームもずいぶん自然になつたように思います。セーフティーセックスをもっと意識するようになった人たちも増えてきたのではないのでしょうか。

より安全なセックスの促進が進む一方で、「もしH-I-Vなどの病気がかかたらどうしたらいいんだろうか?」「病気がならなら孤独になりそうで怖い」という不安に対する支援が今の沖縄にはまだまだ不足しているように思います。

自分が感染者になる可能性はいくらでもあるにもかかわらず、まだまだ他人事としてしか考えようとしていない人が多いのではないのでしょうか。そういう自分も今後H-I-Vに感染したという告知を受けることになった場合、何かの頼りがいなくと容赦に絶望に追いやられると思います。

沖縄県内でH-I-V感染者は150人以上いて、間違いなくこれからも増えていくことが考えられます。セーフティーセックスや



病気についての教育についてはもちろんですが、それ以上に感染者同士の交流や情報交換、そして感染者と非感染者との意見交換の場など、もっと増えていけばいいなと思っし、自分もそういう動きに積極的にかかわりたいと考えています。

「いってきます」

まだ布団の中で寝ぼけ眼の彼氏に言う。僕はスーツに身を包んで玄関のドアを開ける。外に出ると、今日も相変わらず忙しない世の中に飲み込まれそうになるのだ。

出社して、仕事に取り掛かる。何かに騙されているように、オートメックに時間が過ぎてゆく。あつという間に夜だ。バスを待ち、独特の匂いを発する座席に、疲れた身体をうずめる。タクシードライバーの運転で出来た渋滞にイラッとしながら、ちんたら走り抜ける国産車を横目に早く家に帰りたいと願う。

家に着いて、まだ帰っていない相方を待ちながら、明日のお弁当につめるご飯を炊飯ジャーにセット。どうしても眠気に勝てないときは先に布団に入ってしまう。それからしばらくして玄関の鍵が「ガチャッ」と開けられる音で半分だけ目を覚ます。

「おかえり」

こちらが既に寝ぼけ眼だ。あれ、今日はきちんと話をしたけど…と考えている間に僕らの平日は飛びように過ぎていく。毎日は薄いかもしれないが、とても幸せで充足感のある毎日を送っている。

沖縄で二人暮らし。男と男の二人暮らし。隣の家も、その隣も小さな子どもがいる若い家族がくらすマンション。土日ともなると朝から子どもの足音や声が聞こえてくる。そんな隣人達とエレベーターで一緒になる時、廊下ですれ違う時、駐車場で会う時に、なんだかやっぱり気まずい。オカアが集まったりすれば、さ

あ大変！ 遠慮の無いヒンクの笑い声が、コンクリートの壁を筒抜けるんだから。みんなが帰った後の静けさに、ふと隣近所への気まずさを思い出したりして…。隣の家に住むノケカブルの方がよほど気持ち悪い(思っている)けれど、自分たちも気持ち悪いって思われているのかな。

二人はそれぞれ仕事を持ち、様々な社会の中に生きている。どこでもオープンでいられないのは当然のこととしてグイを隠して生きているけれど、そんな中、回響もまてていることは、奇跡かもしれない。

今週末は何をしようかな。



アタシも40を過ぎたところから、色々考える機会が多くなってきたよね。自分のこれからの生き方、親のこと、パートナーとの関係とかだ。

今年、2009年の正月に久しぶりに父親と会った。新年の挨拶をするために一緒に親戚回りをしてね。父親を送る帰りの車の中でこんなことを言って言うのよ。

「お前、今年いくつになる？ 今年こそは結婚したほうがいいんじゃないか？ 年をとって独りつては淋しいぞ」

こ。

すかえずアタシは

「うるさいわね〜！ いい年こいていつまでもグダグダ言ってるんじゃないわよ。アンタに言われなくたってわかてるわよ〜！ アタシだってパートナーに毎日過しているわけじゃないんだからあ。アンタ、そうアンタよ。自分勝手ばかりしてそんなことよく言つてくれるわねえ。でもアタシにだって今、彼氏いるんだからね？！（今のところは）好きだと言ってきてるし、アタシはブスだけど、その人はすごいハンサムなんだからね〜！ 20代でまじブス置いているし、いい人なんだからね！ 喧嘩もしようちゆうだけど、アタシの目線の彼氏なんだからね〜！ でも、その人と結婚したいって言ったら、アンタ、認めてくれる？」

すんたところで喉元まで出掛けた言葉をのみこんだわ。危ない危ない。あやうく全部吐き出すところだった。

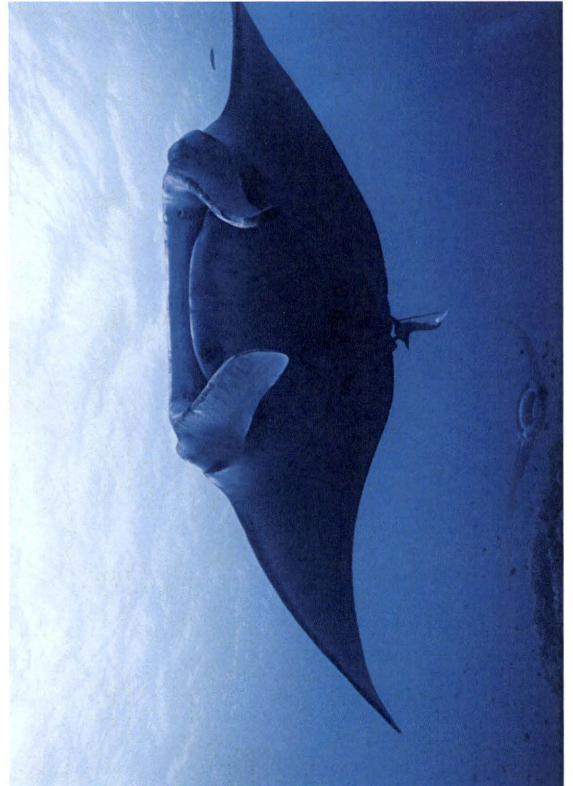
というわけで今、こんなトラスなアタシにも付き合っていたら半年になる相手さんがいます。16歳年下。これからこうなる

場を含めアタシ達の周りがインケ社会であることに変わりはない。だから高校や大学の友達とか、職場でいつと働いた仲間とかそういった人たちにいつ何時お世話になるかわからない。ゲイであることをずっと周りの人たちに隠し続けて、ある意味神経過敏になるところもあるかもしれないけれど、オープンにできないことはあまり気にせず、いろんな人間関係を作っていくかなければと思うのでありますわ（実はそれが垂できていないのはアタシなんだからね(笑)）。

のかわからないけれど、もしかしてこの人とならこれからずっと…な〜んと想像してみる。いや、相手はまだ20代だし、アタシが考えているようには二人の関係を考えてるわけではないわよね。じやあもしこの彼氏と別れて一人になったとき、この先まだ出逢いはあるのかしら？ 短髪誰でも中身は乙女(？)のこのアタシを誰か抱つてくれるのかしら。う〜ん…。「姐さん、年上草の若い子もたくさんいるから大丈夫よ〜」という話も聞くけど、アタシは別に若い子が好きというわけでもなく、これからの将来も考えた上で「パートナーと呼べる人と落ち着きたい」という思いの方が強いのが正直な気持ち。でもこれはやはり焦りでもどこにもなるわけではない。

じやあ、親もいない、パートナーもいない20年後の自分を考えてみたときに、やっぱり權の繋がりがいつのかしら？ 友人との付き合いが大事になるんじゃないかと思うの。これまで築いてきた関係、そしてこれから築いていく関係。バーでの飲み友達以上に信頼し合える関係。パートナーはいなくても一緒に笑ったり泣いたりできる友達関係を作っていくかな〜かならないんじゃないか！ と、ここはかなり真剣にそう思っています。誰かアタシとお友達になって〜！

やはり年の上下は関係なく人とのつながりはとても大切。これはこの年代になつてつくづく感じます。それはインケとの付き合いも言めての語、出逢いはやはり稀だと思えます。もちろん気の合う(タイツだらけの)ゲイ友とワイワイガヤガヤ楽しくおしゃべりしたりついついのももちろん楽しいし、大切だけれども、職



ポジティブでも決して一人ではない GREEN (家事手伝い/20代)

自分の周りには数人、HIVキャリア、ポジティブの人がいる。みんなとても元気で、恋人がいたり、スポーツしていたり、友達と賑いだりと、健康者となんら変わりはないばかり。ただHIVを持っているだけで、なんの変わりもないホント元気な人達だ。

その中で、自分の知人にはポジティブの人と付き合っている人がいる。一人で抱え込むのが限界だったようで、自分に話してくれた。

彼氏とは半年前に付き合ってから、健康診断のつもりで一緒に保健所で検査を受け、彼氏だけがポジティブだったそうだ。原因は、知人と付き合う前に他の人と遊んで感染したようだ。それでも、病気は関係無く付き合っていくと考えたそうだ。

そのほかにも、知人から彼氏との色々な話を聞いた。彼氏は病気が知ったショックでひどく落ち込み、次第に病状も悪化していったそうだ。そんな状態の彼氏に対し「どう気遣えばいいか」「体調の悪いとき、どう接していいか」「エッチとかはどうすればいいか」また、知人自身も、半年の間、病気のことを知らずセックスをしていたので、もしかして自分も感染しているかもしれない。など、とても今までの自分からは想像出来ない問題を抱えていた。

もともと自分は、学生の頃からHIVについて関心があり、人より知識は持っているつもりだった。いざ周りにポジティブな人が表れたとき、内心動揺した。以前から、県内にも陽性者が居ることは知っていたが、さすがに身近にはいないだろうと大きな動揺

いをしていった。結局、アドバイスと言えどアドバイスはできず、ただ聞いてやることしかできなくて、とりあえず2か月後また検査を受けるよう勧めた。

その後、知人はインターネットで知り合った同じ境遇の人とメールをして、恋人として何が出来るか日々考えているようだ。彼氏の方も、医療に専門のカウンセラー、ソーシャルワーカーなど、医療のサポートを受けて少しずつだが順調に回復しているらしい。

今では、HIVは死ぬ病気ではない。例えばポジティブにならなくても、決して一人ではない。多くの人が支えてくれる。理解してくれる人も増えている。自分もそんな一人になれば、これからも二人を応援していきたいと思った。残念なことに、沖縄ではHIV陽性者が今も増え続けている。自分の為にも大切な人の為にも、少しでも多くの人がこの病気を理解し、セーフセックスを心がけて欲しいと実感した。

今では二人とも元気で、セーフでだけセックスも楽しんでいるらしい。



妻は俺10年ぐらい前かな、B型肝炎にかかったことがあるんだ。
1月2日、正月早々仕事でもなんかも足が重いな！ 走つてるつもりでも走れてないっていうか、足があがらないんだよね。家に帰って、当時付き合っていた彼氏(医者)に見てもらったら、「肝炎かもしれないから病院行った方がいい」と救急病院を探してもらって、連れて行ってもらった。「肝炎」って言われてもどんな病気かわからないし、軽い気持ちで病院で検査を受けた。結果がでて、入院が必要だと。

「じゃあ、家に1度帰って荷物もつてきます」

そんなノリな程度じゃなかった。今すぐにでも安静が必要だと、即入院。

両親に連絡をして荷物をもつて来てもらったんだけど、何か部屋に置いてなかったか心配しながらの電話だった。

それが入院した病棟には高校の同級生の女の子が看護士をしていて、はじめは「あ！知り合いがいてよかった」と思ったけど、よく考えるとSTDだし恥ずかしいな！と、しかも、絶対安静の状態、尿瓶を使っておしっこはもちろん、大きい方もおまるで室内でやる状態だった。入院当初は尿瓶の片づけなどは気を使つてか、彼女ではなく必ず他の看護士がやってくれた。

まわりのみんなにも迷惑をかけた。両親はウオーキングがてらだと毎日顔をだしてくれ、体調のよくない日には夜中でも足を運んでくれた。

仕事を休んでいる間はペアを組んでいた女の子にはかなりの負担をかけてしまった。職場の人、同級生、模会仲間、ゲイの友

人、彼氏。たくさんのお見舞いに来てくれた。

まわりだけでなくもちろん俺も大変だった。3ヶ月近く、風呂にも入らず、髭も剃らず。ただ、ベッドの上で寝ているだけ。

否！ それだけじゃない。本当に辛かった。

点滴がうまく入つていなかったのかそこから炎症を起こし、高熱が續いた。夜中に両足がガクガク震え、止めたくても止まらない。ナースコールを押そうとすると、右手と左手がどちらが押すかでケンカをするんだ。

「お前が押し」

「お前の方が近いたらー」

俺、頭がおかしくなちやうと思つた。

入院中ちやうと年配の看護士に

「こんな大病をされると人生観変わるわよ」とよく言われていた。

どんな風になるのだろうと、退院後楽しみにしていたが、さほど変化があつたようには思えない。

でも、ひとつ。セーフアークスは完璧とは言えないかもしれないけど、かなりするようになったと思う。そんなノリでエーションになった時、あの入院の事が思い出され思い踏みとどまることができるのだ！

人間ってそう容易に行動変容できるものではないと思う。僕だってあの病気にかかつていなかったら、今もリスクのある性行動を続けているかもしれない。でもね。やっぱそんな経緯は必ずセーフアークスをできることがいに決まってる。

そう！ 回りの人のため、なにより自分自身のために！



HIV検査は なんくるないさあ〜

ちくすをする以上

HIVや性感染症の検査が
大事なのはわかっている。
でも、なんだからあ〜。

仕事もあるし、デートも♡テンもあるし…。

どんな所で、何されるのかも

良くわからないから不安！

そこで、うちのケイを代表して

ドラマクワイーンのVanillaさんに体験してもらった

その体験レポートで

HIV抗体検査、エイズ検査を予習しておこう。



Vanillaの
体験レポート

1. まず、電話です。

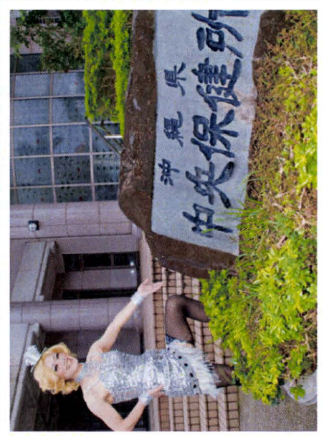
保健所では、検査時に、他の人と合わないで済むようにする工夫をしています。電話での予約もそのひとつです。前の人、次の人、と顔をあわせないうで済むように予約を入れていきます。このときに、他の性感染症(クラミジア、梅毒、B型肝炎、C型肝炎)の検査も同時に受けられます(有料)ことや、検査当日の手順などを説明してくれます。本名や連絡先を伝える必要はありません。キャンセルをする場合は、必ず連絡を入れましょう。



Vanilla

沖繩でDrag QueenとしてSHOWやダンスサーとして活動中。普段はスッピンでCAFE勤務。

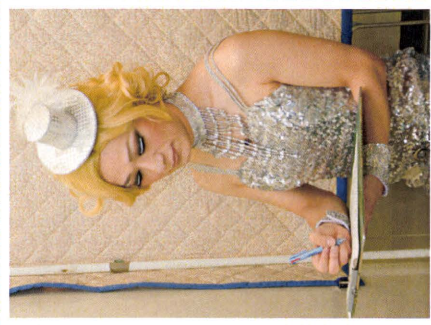
アタシ、個人的にも最近検査を受けたの。検査結果を何日も待つのが嫌だったので、事前に予約を入れて即日回診の検査を受けたいわ。



2. 直接検査受付へ

中央保健所のロビーには、総合受付があります。そこへ立ち寄る必要はありません。まっすぐ、入り口から入って左側の廊下に入り、すぐ右にある第1相談室(感染症室)に行ってください。感染症担当者が対応してくれます。中央保健所には、男性の保健師さんいます。

※保健所の検査のシステムは、保健所ごとに違います。今回は、中央保健所のご協力を得て、Vanillaさんに即日検査によるHIV抗体検査を体験してもらいました。



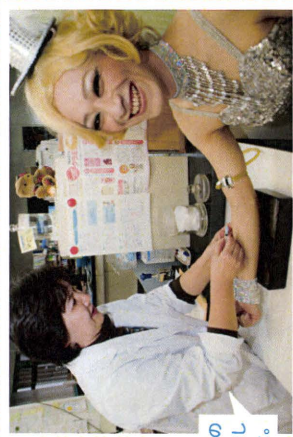
3. まずは、問診票の記入

検査申込書に必要事項を記入します。問診票も渡されますが、記入は自由で、記入しなくても大丈夫です。記入する間は、保健師さんもしない個室で記入します。この検査申込書や問診票に番号がつけられます。名前の代わりにその番号で検査が進みます。

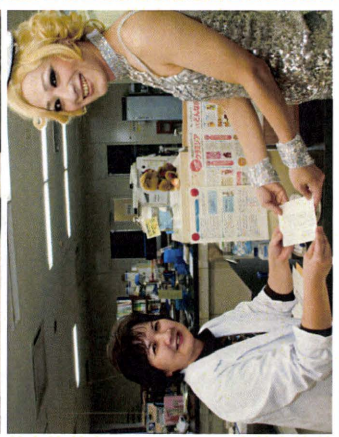
4. 感染症担当者との面談

申し込み書と問診票の記入が終わったら、隣の部屋の担当者に声をかけます。記入した問診票をもとに、簡単な確認がある場合もあります。そのあと、検査の流れについての説明を受けます。また、他の性感染症の検査も受ける場合は、料金の精算

をします。検査の結果を聞ける時間についての説明を受けます。HIV検査については、採血のあと約1時間から1時間半ぐらいで結果はわかります。その他の検査については、項目によって違います。



ちよっとドキドキする瞬間。でも、担当の方がやさしく緊張をほぐしてくれました。終わった。終わってみたいわ。



5. 採血

感染症担当者から、問診票を入れたフォルダーを受けとり、自分で12番の検査室へ行きます。そこで、採血をします(約5cc)。採血はすぐに終わります。採血が終わると、検査結果をもらうときの引き換え証として検査結果説明票を受け取ります。

6. 検査結果

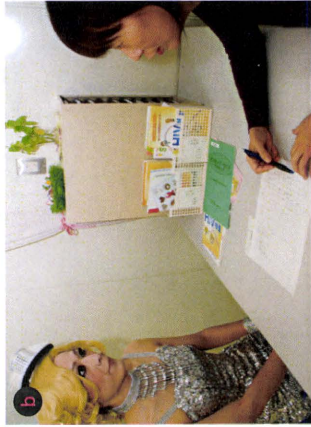
a 採血後、1時間ほど待って、結果を聞くことになりす。待っている時間が無い場合は、結果を後日聞くことも可能です。電話では結果を聞くことはできません。HIV以外の検査結果については、郵送(80円切手は自己負担)でもOKです。

b 結果を聞く時は、はじめに行った第1相談室へ行きます。検査室で受け取った検査結果説明票を感染症担当者に渡してください。そのあと、個室へ通されます。

結果のお知らせは、医師または保健師が行います。個室の中で、ほかに誰もいない状態で行われます。これは、陰性の場合も、陽性の場合も、専門的な説明、アドバイスがあります。



結果が出るまでの待ち時間が約1時間半程ありましたが、待ち時間は何をしていてもいいの。雑談を話したらあっという間でした。



検査結果も丁寧に説明して頂き、ちゃんと受検者の立場に立った親切な対応でしたので、正直、検査を受けるまでは面倒臭いな〜とが僥劫に思っていたが、実際に受けてみて、素直に検査を受けて良かったと思えました。

「保健所からのメッセージ」

迅速検査では、陰性の場合、約1時間後に結果をお知らせできますが、陰性が確認できない場合、確認検査をする必要があります。その確認検査の結果は、保健所によって異なりますが、中央保健所では約3(営業)日後にお知らせできます。

お友達とうし一緒に検査を受ける場合、HIV検査で陰性が確認できなかったり、他の性感染症検査が陽性の場合、結果を伝えることの出来るお友達かどうか、二確認のうえ検査を受けてください。

もし、HIV確認検査で「陽性」となる場合、HIV/AIDS患者さんを専門に診ている病院を紹介いたします。またご希望されれば、本名をお聞きした上で、希望の病院に紹介状を準備して、予約を入れることが出来ます。

私は琉球大学医学部附属病院でHIV診療の責任者を努めています。私はこれまで沖縄県内で1250名の患者さんの診療を行っており、その経験から今回はHIV検査をうけるというこのメリットをみなさんにお伝えしたいと思います。

A. 検査を早めに行ける「メリット」としては、たとえ陽性であっても次の4つことが挙げられます。

- a** より、長生きができる。
- b** 仕事・学業の中断なく治療が続けられる。
- c** パートナーへの感染が防げる。
- d** 人生設計が早く立てられる。

a については、若い年齢で、病気の進行度が少ない程、早く治療することにより平均余命(その人の寿命)が長くなることが知られ、20歳ではHIVにかかっている人と殆ど変わらないことがわかっています。**b**は、ウイルスを発症していなければ殆どの方が外来通院で治療が可能であり、そのため周りの人にHIVにかかっていることを知られる心配がより少なくなるとします。**c**は、パートナーまたは他者の感染予防につながります。もし感染させていた場合でも、大事なパートナーも早めに治療をうけさせる

HIV検査はメリットしかない!!!

琉球大学医学部附属病院 准教授 健山正男

ことができます。**d**は、HIVは現時点では生涯お薬を飲まなければなりません、それを生活の中心におくことが大事となります。そのため、就学、就職、仕事の継続において自分の当初の予定を成しとげるために必要な準備を早めに進めることができます。感染を放置していると、必ず訪れる突然の病気の発症で自分の夢を中断させるリスクがあります。

B. 検査を受けない「デメリット」は

先に述べた「検査を早めに行けるメリット」の裏返しになりますが、それら、私の診療の経験からもうひとつ追加すれば、感染していないにも関わらず、それを知らずに不安な毎日を過ごすため、消極的な生活を送り続けていた人も大勢みえました。

C. どんな人がHIV検査を受けべきか?

この質問をよく受けます。答えは明解です、コトコトを使わないで性行為を行った人は全て対象です。米国では今年もう歩進んで性行為と関係なく13歳以上の全ての病院を訪れた患者さんにHIV検査を行うことを全米の医師に勧告しました。これはこれまで述べたようにHIV検査を早

期に行けることはメリットが大きいことによります。またアメリカでは感染を知らない人から年間2万人以上がHIVの感染をうけているという事実があります。

D. それでも不安な人へ

HIV検査をうけるためには、万が一陽性だった場合でも、しっかりサポートが受けられる安心感が必要だと思います。「ゲイとして差別や偏見をまたねないか?」「プライバシーは守られるのか?」「診療費は大丈夫か?」など不安がきまってくるものです。琉球大学医学部附属病院の患者さんは90%近くが男性同性愛者です。私達スタッフは性的少数者に対してどのように向き合うか、日々研鑽を重ねており、男性同性愛者の支援者グループとも密接な連携を持っています。沖縄県内のエイズ拠点病院は全国的にも高いレベルで、患者さんのケアを提供しています。安心して1日も早くHIV検査を受けることをお勧めします。

最後にまとめです。
「HIV検査をうけるのには、メリットしかない!!!」

プロフェッショナルは僕たちの味方だ！

病院はコワイどころ？ そんなイメージを変えてくれるのが HIVにかかわるいろいろな専門家たちだ。

医療、看護、薬学、心理、福祉など、さまざまなプロフェッショナルがチームを組んで HIV陽性を支えてくれる。

沖縄のHIV診療を行う3つの拠点病院では、それぞれ専門分野の知識や技術はもろろん、プライバシーを守る義務を守り、セクシュアリティについても学び、安心してできる質の高いサービスを提供してくれている。

看護師

治療と生活の両立が出来るように

宮城京子さん（HIV専任看護師）

HIV感染症は毎日お薬を飲み、病気と上手く付き合っていくことで、生活も仕事も続けることが出来る、コントロール可能な病気として考えられるようになってきました。

HIV専任看護師はHIV患者さんに治療と生活の両立が出来るように病気の正しい知識を提供しています。患者さん自身の体調・服薬管理方法やパートナーへの二次感染予防について、また何かしら症状が出現したときなど必要な診療科受診の必要性を説明するなど、医療や生

活などの相談を担当しています。また、受診が遠のいている患者さんには、電話をかけた様子を確認し、受診の相談などもしています。

HIV診療は多くの複雑な問題を持つ場合があるため、医師・看護師・薬剤師・カウンセラー・ソーシャルワーカーなどの専門職からなるチーム医療を行っており、患者さんが満足のいく医療が受けられるように他職種との調整などコーディネートも行っています。

時には厳しくも、友人のようにまたは家族のように関わり、いつでも受診がしやすいように雰囲気作りにも心掛けています。

元気に退院される患者さんの笑顔を見るととても嬉しくなる

石川亨子さん（病棟師長）

私は、病棟勤務の中で、HIV/AIDSで入院される患者さんのケアを行っています。病棟では患者さん自身の感染を予防するため、またプライバシー保護に配慮し話がしやすいように出来るだけ個室での入院としています。入院中には受け持ち看護師を中心に、病気や今後の生

活、治療方針などに関して、パンフレットを使用し教育を進めています。毎週のチームカンファレンスの中で情報交換を行い、患者さんによりよいケアを提供できるよう心掛けています。AIDSを発症し入院される患者さんに関わることもあり、もっと早く治療が出来れば後遺症を残さなかつたのではないかと残念でならない経験もします。しかし、その中でも、治療が上手く進み元気に退院される患者さんの笑顔を見るととても嬉しくなります。もちろん感染しないように予防に留意することで大切ですが、万が一心配ななど思うとき、早めに検査することを勧めます。早期発見・治療することは合併症で辛い思いをしなくて済みますから。

もしも入院が必要にならたときは私たちが病棟スタッフも安心して入院治療が出来るようにサポートします。



定期的なネットワーク会議でHIV医療・看護の向上を

仲村ひろみさん

（南部医療センター とも医療センター 看護師）

HIV感染症は慢性疾患といわれるようになっていますが、人によっては身体的・社会的・経済的・心理的に心配が生じる病気です。

私たち看護師は患者さんの抱えている様々な問題を一緒に考え、サポートしています。性生活の問題など相談もお受けしています。気軽に相談ください。

また、患者さん自身が自分の病気に対し治療方針を決定すると共に自己管理できるように、当院でも医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、検査技師、栄養士、理学療法士などチームをサポートし、多方面から問題解決に努めています。

さらに沖縄県の拠点病院（琉球大学沖縄県立中部病院、南部医療センター、とも医療センター）で定期的に看護師ネットワーク会議をもち、連携を深め沖縄県全体のHIV医療・看護の質向上に努めています。

医師

患者さんの笑顔での会話が仕事の喜び

仲村秀太さん

（医師 琉球大学医学部附属病院）

「HIVの治療薬は10年前とは比較にならないほど進歩していて、患者さんの負担もかなり小さくなりました」そんな話を初診の外來するわけなのですが、多くの患者さんは不安と緊張を抱えていらつるのでなかなかお話しすることが広がりません。病気や治療の話はもちろんとても重要ですが、患者さんにとってはHIVのこと、そこから生まれる死へのイメージ、仕事や将来・家族やパートナーとの関係など解決しないといけない難題が山のようにあるんですよ。なので初診の患者さんとお会いするときにはなるべくお互いが話しやすい雰囲気になれるようにいつも心がけています。

内科医としてできることは患者さんの状態にあつた診療プログラムやお薬の設定を行うことです

が、患者さんの抱える問題が多岐に渡る場合は看護師や薬剤師、ソーシャルワーカーのみならずと新に診療に取り組んでいます。

みなさん最初は本当に不安で大変だと思うのですが、外来で通院していくうちに少しずつ余裕も出てきます。外来の診療がだて笑顔で日常のことなどを話してくださる時、これもこの分野で仕事をしていて嬉しいなと感じる瞬間なんです。

いろいろな職種がチームで支える

高敷光一郎さん

(医師 沖縄県立南部医療センター とも医療センター)

保健所や医療機関でHIV検査陽性といわれ受診される方。

HIV陽性といわれびっくりしてパニックになる方や、やっぱりそうかとある程度予想した結果で比較的落ち着いた方など、反応はさまざまと思いますが、今後どうなるのかという不安があることでしょう。病気はどうなっていくのだろうか？ 治療はどうなるのか？ いくらくらいかかるのか？ だれに相談したらいいだろうか？

？ 人に知られたくない。などなど…

当院ではゆくり診療できるように、一般外来とは別に時間をとって診療しています。外来予約表には表示していませんので、地域連携室を窓口にして予約をとっています。

初診時は多くの方が病氣そのものについて充分理解されてなく不安が強いようです。HIV感染後の自然経過や免疫力が低下するというような病気がうつってくるため、そうならないように検査をして治療の計画を立てる事。ちゃんと治療すれば、薬は一生飲み続ける必要があるが、免疫力が回復して一般の方と同じような生命予後が得られること、常に自分だけでなく他人も大事にしてこれ以上新たに感染しないこと、させないように注意する事などを説明しています。

担当医だけでなく、専任看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、カウンセラーなどいろいろな職種がチームで支えること、プライマシーは守ることを理解され、婦人には表情も和らいでいる方が多いようです。HIV感染の有無を早く知ること、は自分だけでなくパートナーや周りの人々も大事にすることになります。



カウンセラー

HIV陽性者のよりよい生活のための心理的な支援

大城市子さん

(琉球大学医学部附属病院 臨床心理士)

HIV陽性者がより良い生活を送っていくうえで、医学的なケア、社会的なケアとともにメンタルヘルスも大切です。感染をめぐって不安や悩みが生じることは自然なことです。カウンセラーは、HIVに感染した方、その家族やパートナーの方が体験している不安な気持ちや、迷い、悩みにそのまま寄り添い、少しでも気持ちが楽になるようにお手伝いします。また、感染という事実をどのように受け止めていくか、「病をかかえて生きる」という人生の大きな課題についてどのように対処していくかを一緒に考え、その人が最も自分らしく生きていけるようサポートします。

沖縄県では、HIV陽性者のためにカウンセラーを病院へ派遣する制度があります。カウンセリングを希望する方は、受診のときに主治医に

相談して下さい。カウンセリングの期間や回数は、カウンセラーと話し合ってから決めることが出来ます。プライマシーはもちろん守られます。

なお、派遣カウンセラーによるカウンセリングは無料です。

ソーシャルワーカー

安心して上手に医療や福祉の制度を利用してほしい！

石郷岡美穂さん 医療ソーシャルワーカー

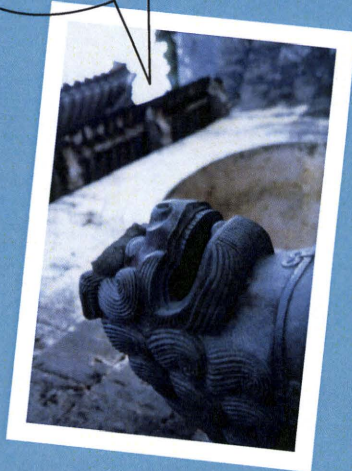
方が「陽性とわかった時でも安心して病院を受診できるように、伝えたいことが2つあります。ひとつは医療費のことです。慢性疾患であるHIVの長期治療に備えるためには、医療や福祉などの制度をタイミングよく利用して医療費の自己負担をできるだけ軽くすることが大切です。制度の利用を検討する過程で、患者さん

がよりよい意思決定ができるよう、諸制度の説明時は「わかりやすい言葉で」「わかるまで何度でも」をサポートしています。

HIV陽性者の方は病院受診時に健康保険(保険証)が使えます。内服を開始すると外来通院では自己負担額割の方で2ヶ月5,100円ほど必要になります。そこで薬を開始する多くの方は身体障害者手帳と同時に自立支援医療(更生医療)を申請して月々の医療費負担を軽くする対策をとっています。

伝えたいこの2つめは、プライマシー保護についてです。健康保険を履いて受診したり、身体障害者手帳等を申請する時は、病院のほか健康保険を扱う機関(市町村、都道府県)との関りがありますが、どの機関に属する職員にも関係法令によって守秘義務が課せられています。また、各地の市町村窓口におけるプライマシーに配慮した取り組みのおかげで、安心して手続きできたという多くの声を聞いています。ひとりひとり関わる機関が異なりますので個別に相談のていきます。

Our Life



Our Life 僕らはみんなこの島で生きている

第1版

企画・編集・発行 ● NANKR

協力 ● 琉球大学医学部附属病院, 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター,

沖縄県中央保健所, 日本陽性者ネットワーク・ジャンププラス

デザイン ● 加納啓善

写真 ● 加藤慶 (P1, 3, 5, 8, 17, 24-26), NAO (P21),

Tomoo Yun (www.yunphoto.net) (cover, P4, 7, 11, 13, 15, 19, 30, 33)

印刷 ● 株式会社テンプリント

このパンフレットは平成20年度厚生労働省エイズ対策研究事業「沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究(研究代表者:加藤慶)」により制作されました。

不安に思ったら...

これまでの自分を振り返り
これからの自分を考えるために

HIV抗体検査の結果が意味するものは何でしょうか?

陰性だった場合はたまたまその時点で感染していなかったというだけのこと。検査前に感じているドキドキやハラハラした気持ちを思い出してみてください。自分のセックスを振り返ってHIV感染の不安を感じるようなことがあつたなら、これからはもっと安心できるセックスの楽しみ方を考えてみましょう。「安心できる」とも感じるはず。

もし陽性だったら、落ち着いて保健師さんや、病院のプロジェクトチームに相談しましょう。これから自分にどんな治療が必要で、可能なのか。治療や健康管理につ

いて知ることは今後の生活を考える上で大切なことです。すると治療費のこと、仕事のこと、パートナーや家族とのこと、等々これからの生活について新しいじじョも見えてきます。

検査の前に、もし自分が陽性だった場合の相談先の情報をチェックしておく安心です。全国には数多くの支援団体が電話相談を行っています。またHIV陽性者自身によるいろいろな活動もあります。保健所や病院でもこれらの支援サービスの情報を手に入れることができます。

HIV抗体検査は自分の性と健康の問題を考える絶好の機会なのです。

沖縄県HIV検査情報(平成20年度)

北部 福祉保健所	名護市大中2-16-1 即日検査 火・水 9:00~11:00, 13:00~15:00 通常検査 木・金 9:00~11:30, 13:00~15:00	tel:0980-52-5219
中部 福祉保健所	沖縄市美原1-6-28 即日検査 火・水 9:00~10:15, 13:00~15:00 第3水 17:30~20:00 通常検査 月~金 9:00~11:00, 13:00~15:00	tel:098-938-9701
中央 保健所	那覇市与儀1-3-21 即日検査 月・水・金 9:00~11:30, 13:00~15:00 第1水 17:30~20:00 通常検査 月~金 9:00~11:00, 13:00~16:00	tel:098-854-1007
南部 福祉保健所	南風原町宮平212 火・水 9:00~10:15, 13:00~15:00 即日検査 第1・3・5木 9:00~10:15, 13:00~15:00 第2・4木 9:00~10:30 通常検査 月・金 9:00~10:30, 13:00~15:00	tel:098-889-6591
宮古 福祉保健所	宮古島市平良字東仲宗根476番地 即日検査 火・木 9:00~11:00, 13:00~15:00	tel:0980-73-5074
八重山 福祉保健所	石垣市字真栄里438-1 即日検査 火・木 9:00~11:00, 13:00~15:00 通常検査 月・水・金 9:00~11:00, 13:00~15:00	tel:0980-82-3240

○検査日は祝祭日は除きます。○即日検査は予約が必要です。○匿名・無料で行います。
○感染の機会から2ヶ月以上経過してから検査をうけてください。

• Kita-daitō island
• Minami-daitō island

• Oki-daitō island

OurLife



ピッチコーリータとグランのお悩み相談

「有料発掘機」に行ってもやれれば得ることばかりです
どうすればいいですか?」
Guan
Bitch Collins
Q: 今更にはお悩み相談...
A: ...
Q: ...
A: ...

ゲイの基本用語 by 勇壮子

【タナコ】・【ウケ】・【リバ】
みんななま〜に見て貰ってかたい「タナコ」ってのが「ウケ」ってことになってるってあるわね。
普通の使い方は「タナコ」って、相手の顔の穴に自分の穴を二重に入れて「気持ちいい〜」と
おんなのこを褒めることってあるわ。
「ウケ」ってのは「ウケ」って、相手の顔の穴に自分の穴を二重に入れて「気持ちいい〜」と
おんなのこを褒めることってあるわ。
「ウケ」ってのは「ウケ」って、相手の顔の穴に自分の穴を二重に入れて「気持ちいい〜」と
おんなのこを褒めることってあるわ。

牧志第一 公設市場
「沖繩の台所」と言われる牧志第一 公設市場は、戦後小卖い
「沖繩の台所」と言われる牧志第一 公設市場は、戦後小卖い
「沖繩の台所」と言われる牧志第一 公設市場は、戦後小卖い
「沖繩の台所」と言われる牧志第一 公設市場は、戦後小卖い

沖縄県 HIV 検査情報 (平成22年度)

Table with columns: 検査所 (検査所), 検査時間 (検査時間), 検査料 (検査料), 検査時間 (検査時間), 検査料 (検査料)

Dr. たてやまの HIV 基礎知識

Dr. たてやまの HIV 基礎知識
「お悩み相談」に行ってもやれれば得ることばかりです
どうすればいいですか?」
Guan
Bitch Collins
Q: ...
A: ...

今回のモデルインタビュー

今回のモデルインタビュー
「お悩み相談」に行ってもやれれば得ることばかりです
どうすればいいですか?」
Guan
Bitch Collins
Q: ...
A: ...

男性同性愛者からの聞き取り調査

研究代表者：加藤 慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究協力者：石川大我（特定非営利特定法人ピアフレンズ）・福岡安則（埼玉大学教養学部）・黒坂愛衣（東京外国語大学）・神谷悠介（中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程）・斎藤幸太（立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻博士前期課程）・佐藤太郎（早稲田大学教育学部学生）

研究要旨

男性同性愛者へのHIV感染予防介入を行うには、同性愛当事者の特徴を把握し、その特徴を踏まえたうえでの予防介入が必要であると考えられる。そこで本研究では、その特徴を把握するため、男性同性愛当事者からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。平成20年度では沖縄県内の当事者の方より聞き取りを行ったことから、平成21年度では関東地方の大都市圏に居住する当事者の方からの聞き取り調査を行った。

A. 研究目的

男性同性愛者へのHIV感染予防介入を行うには、同性愛当事者の特徴を把握し、その特徴を踏まえたうえでの予防介入が必要であると考えられる。そこで本研究では、その特徴を把握するため、男性同性愛当事者からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。

B. 研究方法

平成20年度では沖縄県内の当事者の方より聞き取りを行ったことから、平成21年度では関東地方の大都市圏に居住する当事者の方からの聞き取り調査を行う。

調査協力は、男性同性愛者のセルフヘルプグループであるピアフレンズの参加者に対して研究協力の呼びかけを行い、後日、聞き取り調査を行った。

- ・日程 2009年11月および2010年1月
- ・場所 東京都世田谷区・神奈川県横浜市
なお1月は、かながわレインボーセンターSHIPとの共催である。

C. 研究結果

語り手は、共通して子どもの頃からゲイであるという属性にむけられる外側からの否定的なまなざしを感受してきていた。これによって、自らの存在に悩む経験をしていた。

しかしその後、ほかの男性同性愛当事者との出会いによって、「自己の属性を隠さないとすむ人間関係」や「おなじ属性をもつひとと出会

える場」と出会うことによって、自らの存在を肯定するようになっていった。

D. 考察

語り手は共通して否定的なまなざしを子どもの頃から感受しているが、その後、当事者との出会いによって、自らの存在を肯定的に受け止めることができるようになっていった。しかし、自らの存在を受け入れることと、当事者ではない他者と同性愛当事者であることを隠さずに生活することと必ずしも結びついているわけではなかった。これらは、隠している当事者、オープンにしている当事者ともに、当事者との出会いがともに重要であることを示唆するものである。

E. 結語

平成22年3月に沖縄県那覇市に開設したコミュニティセンターmabuiの運営は、当事者によって担われており、当事者にとって安心して他の当事者と出会うことができる環境となっている。これらは、当事者にとって自らの生活に関するHIVを含む、さまざまな情報を得る機会を提供できるものであり、HIV感染症の情報を既存の公共施設とは異なった形で発信することを可能とするものであると考えられる。

F. 発表論文等

（口頭発表）-国内
なし

同性愛当事者のライフストーリー

沖縄県で生活する男性同性愛者のライフストーリー研究

研究代表者：加藤 慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

研究要旨

非大都市圏である沖縄県で生活する男性同性愛者は、どのような生活を送り、そして自らの生活をどのように意味付けて生きているのだろうか。これまで沖縄県における男性同性愛者当事者の生活は研究されてはいない。その生活を把握することは、沖縄県における HIV 感染予防介入を効果的に行うための基礎資料となると考えられる。そこで、当事者 2 名からのライフストーリーの聞き取り調査を行ったものを掲載した。

A. 研究目的

非大都市圏である沖縄県で生活する男性同性愛者は、どのような生活を送り、そして自らの生活をどのように意味付けて生きているのだろうか。これまで沖縄県における男性同性愛者当事者の生活は研究されてはいない。その生活を把握することは、沖縄県における HIV 感染予防介入を効果的に行うための基礎資料となると考えられる。そこで、当事者からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。

B. 研究方法

研究方法として、質的調査に属するライフストーリーの聞き取り調査を行った。質的調査は、量的調査と異なり、そのデータ単独をもって一般的結論を導きだすものではなく、人間にとっての体験の意味付けを重視し、語り手に寄り添いながら、語り手と聞き手により、物語を構成していくものである。そのため、客観性を担保するのではなく、きわめて主観的であることを自覚したうえで、分析を行うことが必要となる。

そこで本研究では、沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防を、当事者により密に適するかたちで行うことを目的として、沖縄県で生活する男性同性愛者の当事者の 6 名、及び比較対象とするために現在、東京都で暮らす男性同性愛者の当事者 1 名からのライフストーリーの聞き取り調査を行った。聞き取りにおいては、IC レコーダーを使用して語りを録音し、文章化した。

なお、語られたライフストーリーは、すべてプライバシーに属するものである。そのため、日本社会学会倫理綱領に基づく研究指針に従って人権と社会正義の尊重をはかった。具体的には、本報告書掲載前に、文章化できたものを、

語り手本人にお渡しし、文章内容確認と改めての掲載確認をしている。

お話をうかがう際に、事前に筆者からは口頭にて(1)お話いただく際には IC レコーダーにて録音させていただくこと、(2)お話いただいた内容は、お話いただいた本人に属するものであることから、お話いただいた後に修正や削除の希望に応じること、(3)テープおこしを行って文章化したものは、学術研究目的のため、報告書や学会、学術論文として発表されることがあること、(4)お話いただいたあとに公表を希望しない場合、それも対応することを説明している。

このような研究倫理手続き上の要請により、本報告書では平成 21 年 3 月末日までに確認いただいた 2 名の方のものを掲載している。今回の報告書に掲載していない方の聞き取りデータについては、厚生労働科学研究による研究成果である旨を明記して、今後、論文化する予定である。

なお、本文中の〔 〕は、語りの意味を筆者で補ったものであり、補ったうえで、ご本人に意味の確認をとった。

C. 研究結果

(1)心を麻痺させました・沖縄に住む性的マイノリティ男性 A さんのライフストーリー

A さんは、沖縄生まれの沖縄育ちのゲイ男性である。聞き取り時点で、38 歳。家族は、ご両親と、一つ年上のお兄さんの 4 人家族である。聞き取りは、2008 年 11 月に那覇市 NPO 活動支援センター会議室において行った。聞き手は、加藤慶と金城健である。

オカマだった小学生時代

《Aさん》小学校の入学から[話をしますね]。自分はずっとオカマだったんですけど、女の子とよく遊んだんだけど、特別そう、いじめられたりとかそういうのは。[「オカマ」とかって]言われたことは何回かあったんですけど。ただ年子の兄さんがそういう、学年が上になるにしたがって。

やっぱり遊びが、女の子の[ものだったから、] 休み時間とかでも、男の[子は] 急になんか壁にボールを使って遊ぶとかいっちゃって、[自分は] とにかく男の子と遊ばない。

《聞き手A》ピアノ習ってるとか[ききました]が。

《Aさん》はい。習っていました。それ以外では、放課後っていうか、それも近所の[女の子たちと遊んでいました]。なんか学校ごっこっていうのがあって、自分はいつも生徒の役で、なんかわかんないけど通知表とかももらって。でも先生役になったことはなくて、そうやってして遊んでた。学校の話したりとか。

《聞き手A》小学生の頃ですか、初恋って？

《Aさん》自分がいま思うと初恋だったんだと思うのは、小学校3年でした。沖縄の子じゃなかった。転校で来てた。男の子です、もちろん。同じクラスじゃなくて、隣のクラスだったんだけど、休み時間とかで見ると、なんか嬉しくて。で、その子の上の名前をちょっと、[ノート]の端とかに] 書いたりしてたの覚えてます。

《聞き手A》自覚したのっていつですか？ ゲイっていうことを。

《Aさん》ゲイとかっていうの、わからなくて。オカマっていうのはわかるんだけど、ゲイとかっていうのは本当に、自分たちのときは情報がなくて、インターネットとかもちろんないし、ゲイ本の存在も知らなかったし、とにかくもう絶対に男が好きだなんて認めたっていうか、もう絶対[その道で生きていく覚悟を] せざるを得ないだっけ決めたのが、中3。というのは、修学旅行とかあって、すごい心配したんですよ。みんなでお風呂入ってる時に[男の裸を見て……]、っていうことを、すごい修学旅行の前に心配してたのはすごい覚えてて、それまではなんか認めたくないとかって[気持ちで] あったのに、「あれ？ あれあれ？」って思っちゃったとか、そういうのす。ゲイっていうことを知ってたかわからないけど、自分の興味は男なんだなと思ったのが、はっきりと思ったのが、中2か中3だと思います。

《聞き手A》今では困惑とかってないんです

か？

《Aさん》悩みはずっと[あります]。それで、友達どうしてどうのこうのっていうのは、悩んだりしたんだけど、やっぱり思春期特有の、他のことでいっぱいとかそういうことのほうで[悩んだりした]ので、ゲイだけで悩んだりっていうような[ことではありませんでした]。

中学生から高校生時代

《聞き手A》中学校のときとかって、なんともない？ ちなみに部活は何やってました？

《Aさん》最初はバレエ部にいたんだけど、やめて、吹奏楽部にはいり、パーカッションを担当した。女の子が多いところ[=部活]に(笑)。

《聞き手A》[中学校は] 地元の？

《Aさん》S中。

《聞き手A》S中学校[ですね]。高校もこのあたり[=那覇市内] ですか？

《Aさん》うん、高校も那覇市内。悩んだというか、いい思い出が全然なくて、部活とかもなくて、もうなんか、飲み屋[=ゲイバー] があるとかも、もちろん[未成年だから] いけないけど、知らないし、[同性愛の雑誌の] 『BADI』とかもない時代なんで、古本屋ですごい古い、70年代ぐらいの、たまたま見つけたもの[=ゲイ雑誌] をすごい大事に持ってた。

[高校では] 理系・文系って分かれたんですけど、[自分自身は] 文系にあって、男子は[クラスで自分以外に] 6名。文系は男のひとがが少ないので、[自分以外のひとどうしでは] 仲良くなるひととかも[いた]。軽く仲いい人はいるんですけど、心を打ち解けて話せるっていうのは、[自分がゲイだと] 自覚してからは[できな]かった。

《聞き手A》沖縄では高校入学の選抜ってどうやってるんですか？

《Aさん》内申書っていうのがあって、それとか、中学校のときの校内の席次。たとえば100番以内だったらこっちの高校とか、あと、この地区だったらこの高校、普通科だったらこの3つから選んでいって、自分の学力にあったのを決める。

《聞き手A》高校のときはなんかやってたんですか？ 部活動。

《Aさん》やらなかったですよ。だから、余計……

《聞き手A》うちにこもってた？

《Aさん》なんか、すごい冷めてしまって。なんでか知らない。今はもうすごいもったいないことをしたんだけど。いちばん楽しいはずの[時間を無駄にして] しまって。高校ってなん

か、青春ドラマじゃないけど、学園祭前にクラスで団結して盛り上がりたりとか、クラス会終わったあともお疲れ様[って打ち上げしたり]、ああいうのがすごい馬鹿らしく[思え]て、なんかみんなの輪の中に入りたのに入れなくていうか、その宙[ぶらりんの]、そのままの自分が怖くて、あまりひととも関わらないようになっていうか、なんつうのかな……

《聞き手 A》どっかでバレルんじゃないかって？

《A さん》バれてるっていうか、急に友達づきあひとかが[減った]。意識過剰だったのかもかもしれないけど、親しい友達とかとかも[いなくて]授業受けて帰って終わり。ほんと、楽しくなかった。学校以外で楽しみがあれば、また違った。

中学のときに、すごいこう、多感な時期でしょう。あまりにもいろんなことを感じるっていうか、このままいろんなこと感じてたら、精神の均衡を保てない。[だから]あんまり感じないようにしよう[と]。いろんなことを感じすぎて怖くて。って思って、なんか、楽しいのを見ても、べつに楽しくないようなふりをしたりとか、悲しいのを見てもべつに悲しくない、とか、それが高校になって、心を麻痺させてた。

《聞き手 A》中学生で、心を麻痺させて。

《A さん》麻痺させようとした。あまりにも感じて、「感じすぎたらおかしくなるんじゃないか、苦しい」って。で、「べつに悲しい映画見ても感じないようにしよう」とか。高校になったら、そうしたのが、ほんとに[何も]感じなくなると、感動が薄くなるっっちゃうか、「ばかじゃないの」みたいな感じで、冷めた高校生になってしまって。クラスの中でも。といって、べつに不良でもないから、サボったり、恋愛もなく、「好きなの？」って[このような無感動な状態でも]思うひとはいた。

《聞き手 B》どういうひとですか。

《A さん》先輩だった。[先輩は]よくしてくれた。[A さんが]弁当忘れたら、自分の分をくれたり。

高校を卒業してから

《聞き手 A》高校卒業したあとは、どういう進路だったんですか？

《A さん》北九州っていうところに、移動。

《聞き手 A》じゃあ、18 で北九州のほうに移られるわけですね。

《A さん》はい。だけど自分は、あまりにも高校が楽しくなかったから、大学生活に夢見てたんですよ。で、自分の頭の中にあったのは、東

京の大学生みたいな[キャンパスライフ]。でも、うちは年子で、兄さんが私立の本土のほうの大学にいて、「本土の大学はいいけど、私立は[経済的に]ダメ」って言われて。[きょうだい] 2人で[育てるのにいっぱいいっぱい] 普通の家庭なんで。まあ、「本土はいかせるけど、私立はダメ。東京の私立なんてとんでもない。公立ならなんとか」っていうことで、北九州にいったんだけど、思ってたよりも田舎っていうか、すごいがっかりしたのを覚えてて、標準語を喋ってると思ったら「〇〇っちゃ[九州弁]」とか言って。自分も馬鹿なんですけど、それでなんか幻滅してしまっ。

[その大学にあった学部は]文学部、法学部、外国語学部。今ちょっと変わってるんだけど、国際関係学科とかあって。で、大学を1年[次]で中退して出たんです。わざわざ大学をやめて予備校にいったんだけど、[次の年も大学に]落ちて。

《聞き手 A》で、北九州を出たんですよね。[北九州にいたのは]1年間？

《A さん》1年じゃないですね。半年ぐらい。《聞き手 A》大学やめて、すぐ東京にいかれたんですか？

《A さん》いてないですね。沖縄で[しばらく暮らした]。次の年の試験に落ちて、1年間また予備校にいった。東京外国語大学にいきたくて。無茶だったんですけど、今から思うと。《聞き手 A》東京にいかれたのはいくつのときですか？

《A さん》東京にいったのは、30 のときです。ずっとあとです。大学[時代]でいったんじゃない。

《聞き手 A》受験をして予備校いったのは、沖縄ですね。

《A さん》そうです。しかも落ちたんです。で、なにか資格を持とうと思って、介護の資格を取って、病院で働いてたんです。

介護専門学校の学生時代

《聞き手 A》専門学校で[の学生生活]は？

《A さん》それが、本当に楽しくなくて、これも。冗談じゃなくて。

《聞き手 A》女の子のほうが多いですよ。介護福祉士の学校だと。

《A さん》[全校生徒の中で男は]10 人いるかないか。ほんとに楽しくなかった。年齢もさまざま。高校卒業したばかりのひとが主流なんですけど、やっぱり50 近いひともありとか、30 いくつのひともありとか。そのとき介護福祉士の[資格が]、[自分は]91年に[専門